

「未来高岡」ステップアップトーク（福岡地区）会議記録 <要旨>

- 1、日 時 平成 28 年 9 月 1 日（木） 午後 7 時 30 分から 8 時 30 分
- 2、場 所 福岡にぎわい交流館「フクール」
- 3、出席者 市民 65 名（うち女性 15 名）

高岡市

市長、経営企画部長、広報統計課長

4、会議次第

- (1) 高岡市総合計画基本構想の紹介
- (2) 参加者との意見交換

.....

(1) 高岡市総合計画基本構想の紹介

(2) 参加者との意見交換

参加者

- ・「市民創造都市」という言葉には「市民が主役である」という思いが込められていると思うが、それを実現するためにはどのように取り組んでいけばよいのか。今後の自治会活動へのヒントを教えてください。

市長

- ・行政だけでなく、市民が活動の主体となることで良い循環が生まれまちの活力となる。そのため、市民一人一人が創造的に活動し、挑戦する気持ちを持っていくことが大切だと考えている。行政は、交通機関や住みやすい環境づくりなど、ヒト、モノ、コトが交流する場を作ることで市民の活動を応援していきたい。それには、市民一人一人が地域の良さを再発見していくことも大切なこととなってくる。それぞれが自分の町の良い所に気づけば、まちに誇りを持つようになる。発見したことを口に出し伝えていくことで責任をもち、それが活動にもつながっていく。

参加者

- ・旧北陸街道周辺にある用水の維持管理が難しくなっているという話を聞いた。用水として使用しないのであれば、使用済の水は下水道に排水し、用水を埋め立てるのも一つの方法ではないか。

市長

- ・農業用水は利用者負担を原則とし、基本的には土地改良区が管理している。用水のあり方については、関係者と協議していくことが必要となるため、まずは用水管理者と協議

をしながら解決策を考えていきたい。

参加者

- ・民地で使用されていない土地が多くあるため、市で活用できないか。

市長

- ・土地の利活用については、利用目的や市で所有する必要性等を考慮しなければならないため、情報提供があった場合に個別に考えていきたい。

参加者

- ・富山県内のイノシシ捕獲数は急激に増えており、山裾に家がある住民は、毎日イノシシ対策に追われている。各市が連携して取り組んでいかないと対応できないことから、とやま呉西圏域の中でイノシシ対策を優先的に行ってほしい。

市長

- ・イノシシは、最近 10 年ほどで増えていると聞いている。高岡市でも捕獲支援や電気柵設置の補助を行っているが、1 つの市で対策をとってもイノシシは移動してしまい根本的な解決にはならないと感じている。県にも意見を伝えており、できるだけ広域的に対策をとっていきたい。